第５分科会「就学前の子どもたちと犬のふれあい」

杉本恵子

東京都葛飾区にあるＮＰＯ法人葛飾幼児グループと動物とのふれあいボランティアグループ ”コロちゃんの輪” が出会ったのは２１年前です．

東京都の動物ふれあい移動動物園に申し込んでも順番待ちであり，又，年一回来てもらう状況でした．子供たちにいろいろな世界，仲間がいることを体験させたい，そして，そのチャンスが毎月あったら，どのように子供は受け止め，そして，発見し，感じた新たなつき合いを育てていってくれるだろうか？ そんな期待をふくらませて活動はスタートしました．

ＮＰＯ法人葛飾幼児グループは，葛飾区を中心とした近隣の，発達に遅れやつまづきのある就学前の子供たちの，心身の発達を促す療育指導を行っている場所です．子供たちは家族と共に通所し，子供だけでなく，母親や家族の支援を行いながら，葛飾区の青戸児童館と連携を取りながら活動をしています．「コロちゃんの輪」は月一回の訪問活動をして，葛飾幼児グループ活動の一部に参加しています．

【本活動を通して見られた事】

１　子供たちと家族が共に参加することは，幼児にとって，親の感動，感情は直接伝わってくる大切で確かな情報です．子供たちと親が犬たちと一緒の出会いを体験していくことで，家族や友達，幼児グループという人との関係だけでなく，新たな動物との付き合いは，心を通わせることで子供たちの自信へとつながっていくように思われた．

２　恐がったりする感情から，好奇心や驚き，喜びへと，子供たちの心は柔らかく，たくましく変化していく，経験が固定化する前の幼児期に，体験していくことは，自立していく成長過程に豊かさをはぐくむことになるのではないか．

３ボランティアに参加する犬たちは，大人も子供も受け入れ，フレンドリーな関係を作れる事，しつけ教室を経験し，ハンドラーであるボランティアスタッフとのパートナーシップをしっかり持つという，AAA（動物介在活動）にのっとってやっている．しかし，何でも我慢して受け入れるのではなく，子供たちの対応の中ではいいことだけでなく，いやと言ってるよという犬の心もしっかりと伝えることを大事にしている．

４　時には，吠える犬であったり，毛を引っ張られると噛むことはないが口が行って，いやと言える犬も参加したことがある．犬は，何をしてもいい存在という誤った情報を伝えることで，ボランティア以外の犬たちに出会った時の事故を防ぐことも幼児グループの先生から求められた．お互いを知り合い，思いやりや確かめ合うこともはぐくんでいかれるように協力して活動している．

一年の活動のけじめでいただいた寄せ書きを以下にご紹介させていただきます．

・いつもお世話になり，ありがとうございました．動物好きの息子は，「今日幼児Gよ」と言うと，「ワンワン？」と聞き返すほどいつも楽しみにしていました．とても良い体験になりました．

・〇〇は犬に触れたことがなかったのですが，コロちゃんの輪で，散歩したり，エサをあげたりと初めての体験ができて，とても楽しそうでした．いろいろあ

りがとうございました.
・○○は，犬が大好きで，コロちゃんの輪がくることを知ると楽しそうにしているので，ありがたいなと思いました．良い体験ができてよかったです.
・普通の生活で動物と触れ合う事はないので，子供にとってとてもいい経験になりました.
・ワンちゃんたちのおめめがとてもキレイで，心が癒されました．どうもありがとうございました．一緒のおやつタイムも楽しかったです.
・ツメのアカを少々頂きたい位お利口なワンちゃん達と遊んでいる内に，動物が大好きになりました．○○がも～ちょっと手が掛からなくなったら，是非ウチもワンちゃんを飼いたいです.
・○○は犬が大好きなのですが，優しく触ったりすることが苦手で，うまく遊べなかったのですが，何回か遊んでもらううちに，そっと撫でてあげることができるようになり，うれしかったです．ほんとうに良い経験をさせていただき，ありがとうございました.
・たくさんあそんでくれてありがとうございました.
・最初はこわごわ・・だった○○も最近はリードを持ってのお散歩が大好きになりました．遊んでくれてありがとうございました．とても楽しかったです.
・おくびょうで犬に触れることができなかった○○が，少しづつ触れることができるようになりました．とても良い体験ができました.ありがとうございました.
・○○は犬が大好きで，毎月楽しみにしていました．（昨年ですが・・・）足を踏んでしまったり，ヒモを引っ張り過ぎたり・・．ご迷惑をかけました．また会えるといいですね.
・一回しか参加できませんでしたが，犬が大好きだったのですぐに馴染め，大喜びでした．ありがとうございました.
・「コロちゃんの輪」の日は，「ワンちゃん来る？ビビちゃん来る？」とすごく楽しみにしていた○○です．お散歩するのも本当に嬉しくて，一緒にミルクを飲めるのも楽しくて・・．春から土曜日に変わるので，会えなくなるのは親子共々とても寂しいです．土曜日に通っても，「ワンちゃんは～？」って聞いてきそう・・．本当に有り難うございました．とても楽しかったです.

最後に

コロちゃんの輪として，特別養護施設の高齢の方々との活動，成人の精神障害者ホームでの活動，保育園，小学校の子供たち，又，特別養護学校の中学生との動物介護療法の参画などを20数年，犬たちとともに歩んで来ました．動物たちと人とが生み出すハーモニーのすばらしさに出会ってきました．その中でも，就学前の幼児の感性を豊かにしてくれた，家族，友達，教育サポート側の方々と共に一体となった本活動は，有用であり，これからも一年一年を大切に続けていく所存です.

（ＮＰＯ法人葛飾幼児グループ・獣医師）

第５分科会「特別支援学級での動物飼育」

三本隆行

第10回研究会で報告したとおり，人とのかかわりへの課題など様々な発達障害を抱える児童たちに，動物とかかわらせることで，動物への親しみ，興味，関心を深めさせることができるか，またその体験により「生命の大切さ」，「他者への思いやり」を考えさせることができるか，などの可能性について研究を続けた．また，同時に，児童たちが動物とふれあい続けることで，その影響や情緒や行動などに変化が現れるか，などを調査検討した．

奈良県内小学校３校の特別支援学級で，獣医師の支援のもとにモルモットの教室内飼育を実施し始めてから，約1年が経過している．生活単元学習のテーマを「どうぶつ」として，動物園への遠足に始まり，特別支援学級の児童25人（３校合計），各小学校１～２頭ずつ，2008年５月から現在まで飼育を継続していた．

しかし，そのうち２校で飼育に関する問題が持ち上がり，飼育継続を断念せざるを得なかった．

【Ａ小学校】

＜Ｎ君：自閉症圏＞

飼育当初はモルモットの世話を率先して行っていた．自分の行動を下級生が真似たり，下級生から「すごい」，「N君はモルモットを抱けるんだ」と言われることが本人にとっても自尊感情（self estimate）を高めることになっていた．

休日にはすすんでモルモットを自宅に持ち帰り，保護者ともモルモットの話題で多くの言葉を交わすようになっていた．

しかし，独占欲や支配欲が強まり，モルモットを抱くだけの行動から，モルモットを強く抱いたり振り回す行為に変化していった．担当教師からは「N君，それは可愛がっているのではなく，虐待しているんだよ」と注意されてもやめなかった．

３学期のある日，担当教師から連絡があり，「何百回も注意しているがまったくやめない．これでは，飼育から愛情や思いやりを得ることにならず，虐待がエスカレートしていくだけです」と，涙ながらに訴え，やむなく飼育の中止を決めた．

＜もえちゃん：自閉症圏＞

飼育を中止し，獣医師が２匹のモルモットの世話を行うようになった．以前，もえちゃんが２匹のモルモットの性格の違いを指摘した時，教師も獣医師も「色も大きさも同じモルモットの見分けはついていないだろう．」と考えていた．

しかし，獣医師が飼育し始め１ヶ月が経過した頃，２匹のモルモットの性格が明らかに異なることに気がついた．もえちゃんの観察力にあらためて驚く．

【Ｂ小学校】

＜Ｃ君：自閉症圏＞

もともと気管支喘息を持病としていたが，モルモットが来て以来，学校でモルモットを見て喜び，興奮して帰宅をすると必ず喘息の発作が出るようになった．心配した保護者が内科の病院を受診した．内科医が「これは動物アレルギーです．」と話したことから保護者は小学校に飼育の中止を申し入れた．

「動物アレルギー」云々に関しては教師，獣医師側から反論の余地はあったが，保護者にとっては内科医の言葉が絶対であるため飼育の中止を決定した．

【C小学校】

＜たっくん：自閉症圏＞

飼育を継続中．そろそろモルモットへの関心も薄れてきた頃だろうと教師は感じていた．

ある日の掃除の時間，突然，「そろそろモルちゃんの誕生日だよ．」と話し，お誕生会をしてあげようという話題になった．何事にも受身になることが多く，他者の気持ち等を考えることの苦手なたっくんが，モルモットの誕生日について自分から話したことに教師は驚きと喜びを感じた．

＜あんり：ダウン症＞

昼休みに通常学級の児童とケンカして不機嫌な状態が５時限にも続いていた．

教師や獣医師から，「モルちゃん，好き？」，「モルちゃん，大事にしてますか？」と

聞かれても，「キライ！」，「うるさい！知らん！」と答えていた．

モルモットの飼育箱の掃除をする際も不機嫌な状態は変わらなかった．

新聞紙を投げつけたり，餌の入った袋をドシン！と置いたりするが，なるべくモルモットから離れた場所で実行していた．モルモットを飼育箱から出す時だけは，優しく抱き上げ

そっと戻していた．

＜C小学校　特別支援学級担当教師＞

モルモット室内飼育の利点

・教師がモルモットの気持ちを常に言語化することで，他者の感情をよみとる訓練ができる

・「お誕生日」等の行事を定期的に行うことが，次に何をしようかという意欲をもたせる

・通常学級からモルモットを見に来る児童が増え，子ども同士がふれあう機会をもてた

○担当教師のおすすめ書籍

・「ねずみくんのチョッキ」

・「ねずみくんのクリスマス」

・「ねずみくんとホットケーキ」ほか

シリーズで出版（著）なかえよしを、（イラスト）上野紀子、ポプラ社刊

（言葉が少なく，対象となる絵（登場人物）が少ないので，注意が散漫になりにくい）

（帝塚山大学非常勤講師・獣医師）